



制作年月日と経過	内容並びに時間・人員・諸経費
<p>〈昭和53年〉</p> <p>6月上旬 著者より入稿</p> <p>9月上旬 著者より入稿完了</p>	<p>同年6月6日(火)付で、著者(堀晃氏)より早川書房・編集部第2課(SF担当。以下編集2課と称す)宛に発送されてきた『太陽風交点』(日本SFノヴェルズ、四六判上製本)の短篇(本文用原稿)10篇を受取る。</p> <p>同年8月31日(木)付で、著者より編集2課宛に発送されてきた同書の変更用原稿1篇「骨折星雲」を受取る。この時点で著者よりの最終原稿の入稿となる。しかし同書は短篇集の為、作品順序が問題となる。ただし、著者は海外出張等多忙の為に連絡がついたのは10月下旬頃であった。この時点まで編集業務は停滞する。11月上旬頃作品順序決定。しかし、年末年始の時期となり、例年通り過密業務、突貫の出版物が企画されている。例えばFT(ファンタ</p> <p>ジイの略称)文章の副刊(昭和54年2月14日3点同時発売)があり、又次の様なセット重版が企画された。①クリスティー・フェア〈第1回32点〉②クリスティー・フェア〈第2回27点〉③特別重版情報161〈54点〉④JA(ジャパニーズ・オーサー=日本人作家の略称)文章フェア〈31点〉⑤特別重版情報162〈55点〉⑥SF文章ピック・アップ〈20点〉⑦NV(ノヴェルズの略称)文章フェア〈48点〉等々である。これらは12月初旬から3月下旬までの企画である。</p>
<p>〈昭和54年〉</p> <p>3月27日 火 本文割付の後 印刷所に入稿</p>	<p>同書を編集2課は割付の後、営業部第三課制作(以下制作課と称す)にまわす。制作課は本文割付(文字、凶版等の印刷上の指定)を行う。(9ポイント(活字の大きさを表わす単位をポイントと呼ぶ。1ポイントは約0.35mm)で1段組、44字詰で18行、行間(活字や写真植字の組版で行と行との間隔のこと)は6ポイント全角)組上げ予定ページは約272ページ。組上げ予定日は4月11日(水)の指定。以上の点を台割表(書籍や雑誌のページ割の進行表)に記入する。本文割付の完了した原稿を同日午後、印刷業社中央精</p>

版印刷株式会社)の営業部員に説明したのち、依頼、発注する。

●編集2課180分1人/制作課210分2人 計17,600円

4月19日 木
本文組上り

組上げ予定日より8日間の遅れで、組上がり、中央精版印刷株式会社の営業部員が本文割付原稿と校正用のゲラ刷(活版印刷での校正刷をいう)を早川書房に待参する。組上がり308ページ。制作課は割付通に本文組がなされているか否かを確認し、進行表に鉛筆で308ページまで直線を引き、校正ゲラの出た日を記入したのち本文割付原稿と校正ゲラの1通を編集部校閲課(以下校閲課と称す)にまわす。制作課では残り2通の校正ゲラを保管する。

●制作課60分1人 2,000円

5月2日 水
本文初校終了

校閲課で本文の初校(1回目の校正<組版の誤り、不体裁などを原稿と照合して校正刷で訂正を指示する作業>をいう)が終了し、編集2課の担当者にあつた。

●校閲課10日1人/編集2課3日 計24,800円

5月9日 水頃
本文著者校正

編集2課で初校終了の本文ゲラを見直し、著者(堀尾氏)校正の為総務部労務課(以下労務課と称す)は郵便小包にてゲラを発送する。

●労務課10分1人/郵送料 計1,400円

5月12日 土

著者に郵便小包が到着する。

5月中旬頃
解説依頼

編集2課は小松左京氏に同書の解説を電話で依頼する。資料として本文ゲラを郵送する。

●編集2課10分1人/労務課10分1人/郵送料・電話料
計2,450円

原画依頼

カバー・ジャケットの原画を加藤直之氏に依頼する。この際同氏が所属する「スタジオぬえ」に2課の編集員が本文ゲラを待参する。

●編集2課120分1人/交通費 計4,420円

5月22日 火
本文著者校正終了

著者校正が終了し、早川書房編集2課宛に本文の校正ゲラを速達にて発送する。

6月4日 月
本文要再校

編集2課は著者校正終了の本文ゲラを整理し制作課の担当者にまわす。制作課は校正された赤字(校正刷に書き込んだ訂正文字や校正記号)の入具合、本文の組版が割付通りか否かの点を再チェックし、進行表に赤鉛筆で308ページまで直線をひき、初校が終了した日付を記入する。要再校(印刷所に再び校正ゲラの必要を求めること)として、中央精版印刷株式会社の営業部員に同日手渡す。

●編集2課180分1人/制作課120分1人 計10,000円

6月13日 水
本文再校出

中央精版印刷株式会社の営業部員が再校ゲラを早川書房に持参する。制作課はノンプル(書物に付けるページの番号をいう)等をチェックし、進行表に再校が出た日付を記入する。交閲課に要再校と記された初校ゲラと再校ゲラとをまわす。

●制作課60分1人 計2,000円

8月1日 水
解説原稿出来

小松左京氏に依頼しておいた解説原稿が早川書房の編集2課に郵送で届く。編集2課は解説をコピーした後、堀尾氏に郵送する。

●編集2課10分1人/労務課10分1人/郵送料・コピー料
計1,140円

●解説料 80,000円

8月6日 月
解説届く

編集2課が堀尾氏宛に郵送しておいた解説原稿(小松左京氏の解説)のコピーが同氏の手元に届く。

8月9日 木
付物入稿

制作課は付物(書物の前付、後付で本文を涂いたもの。前付とは本文の前におかれ、後付は書物の末尾の部分に付く物をいう)を作成し、併せて解説の割付を行ない、中央精版印刷株式会社の営業部員に手渡す。

●制作課90分1人 3,000円

8月16日 木
原画出来

編集2課は「スタジオぬえ」に出向き、加藤直之氏に依頼しておいたカバージャケットの原画を受取る。

●編集2課120分1人/交通費 計4,420円

●画料 45,000円

付物組上り	<p>付物の初校組上りゲラを中央精版印刷株式会社の営業部員が早川書房に持参する。制作課は校閲課にまわす。校正終了後編集2課にまわる。</p> <p>●編集2課1日1人/校閲課1日1人 計36,000円</p>
8月中旬頃 解説者校正	<p>小松左京氏に解説の著者校正を依頼の為、付物ゲラを郵送する。</p> <p>●労務課10分1人/郵送料 計470円</p>
8月31日 金 本文再校終了	<p>校閲課は、解説(付物)の進行に併せて読みはじめていた本文の再校を終了する。</p> <p>●校閲課3日1人 60,000円</p>
9月3日 月 本文要念校	<p>制作課は再校ゲラに加筆訂正された赤字の状態をチェックしたのち、進行表に赤鉛筆で波線を引き、要念校(印刷所に3回目の校正ゲラの必要を求めること)として中央精版印刷株式会社の営業部員に同日手渡す。</p> <p>●制作課60分1人 計2,000円</p>
9月5日 水 本文念校出	<p>中央精版株式会社の営業部員が本文の念校ゲラを早川書房に持参する。製作課は再校の時と同じ手順で業務を行なう。</p> <p>●制作課60分1人 計2,000円</p>
9月11日 火 解説者校正終了	<p>編集2課の社員はホテル・ニューオータニにて小松左京氏より解説の校正終了ゲラを受取る。</p> <p>●編集2課60分1人/交通費 計2,200円</p>
9月12日 水 本文念校終了	<p>校閲課は本文の念校を終了する。</p> <p>●校閲課2日1人 計40,000円</p>
9月13日 木 本文責任校了	<p>制作課は念校終了の本文ゲラの赤字等の整理を行ない、責任校了(印刷所が本文中などにある赤字の箇所を責任をもって校正し直すこと)として校正刷に「責了」(責任校了の略称)の印を押し中央精版印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p>

付物要再校

9月17日 月

付物再校出

発行部数と
定価の決定

●制作課 240分3人 計15,000円

付物を要再校として中央精版印刷株式会社の営業部員に手渡す。

●制作課 20分1人 600円

付物の再校ゲラを中央精版印刷株式会社の営業部員が早川書房に待参する。制作課は校閲課にまわす。校正終了後編集2課にまわる。

本文の完了に従って発行部数の検討(編集2課、制作課、経理課)に入る。日本SFノヴェルズの新人の平均発行部数は4,000部としているが、堀光氏の場合、新人にもかかわらず、作家と作風に期待を寄せて原価計算を行ない、各部門で討議の結果7,000部と決定する。(製作部数は7,100部で内100部は献本用とする)定価1,200円。

●会議 60分4人 / 制作課 15分2人 / 経理課(総務部) 30分1人 計12,000円

●本文組代 345,708円

(9月17日までの総人員・総金額) 36人 937,408円

(以後の総人員・総金額) 36人 2,401,210円

9月18日 火

本文用紙発注

原画写真撮影

印刷に入る為、本文用紙を発注。

発注先 株式会社市瀬紙業

納入先 中央精版印刷株式会社

本文紙使用枚数 36,565枚

●用紙代 409,528円

●制作課 10分1人 300円

ブック・カバーの材料として原画を写真撮影にまわす。

●写真撮影代 1,000円

●制作課 30分1人 計2,500円

印刷指示書作成	<p>印刷に入る為、台割表と印刷指示書を中央精版印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p> <p>●制作課 40分 2人 計 1,200円</p>
9月19日 水 ブック・カバー用 写植原稿発注	<p>ブック・カバーの材料として写真植字（写真植字機で印字される文字。通常は写植という）の原稿を発注。</p> <p>発注先 有限会社伸光写植</p> <p>●写植代 4,100円</p> <p>●制作課 40分 1人 4,000円</p>
付物要念校	<p>付物を要念校として中央精版印刷株式会社の営業部員に手渡す。</p> <p>●制作課 20分 1人 600円</p>
9月20日 木 売上カード作成	<p>制作課は売上カードの原稿を作成し、協栄印刷所に発注。</p> <p>●制作課 20分 1人 600円</p>
9月21日 金 付物念校出	<p>付物の念校ゲラを中央精版印刷株式会社の営業部員が早川書房に</p> <p>持参。制作課は校閲課にまわす。校正終了後編集2課にまわる。</p>
売上カード用紙 発注	<p>売上カード印刷用紙の発注。</p> <p>発注先 大水紙通商株式会社</p> <p>納入先 早川書房</p> <p>●用紙代 1,151円</p> <p>●制作課 10分 1人 300円</p>
ブック・カバー 版下作成、発注	<p>ブック・カバーの版下（真鍮製版する為の文字または、線画の完全原稿）を作成、発注。</p> <p>発注先 有限会社ミツミ製版</p> <p>●製版代 31,200円</p> <p>●制作課 90分 2人 5,000円</p>
表紙の版下 作成、発注	<p>表紙の版下を作成、発注。</p> <p>発注先 有限会社ミツミ製版</p> <p>●製版代 4,000円</p>

<p>9月24日 月 本扉写植原稿 発注</p>	<p>●制作課40分2人 4,000円</p> <p>本扉(書名、著者名などを記したもの)作成の為、写植原稿を 発注。</p> <p>発注先 有限会社伸光写植</p> <p>●写植代 700円</p> <p>●制作課20分1人 2,000円</p>
<p>売上カード組上り</p>	<p>売上カードが組上り、校閲課、編集2課にまわす。</p>
<p>表紙用紙発注</p>	<p>表紙の印刷用紙を発注。</p> <p>発注先 二葉紙業株式会社</p> <p>納入先 有限会社幸和堂酒井印刷所</p> <p>使用枚数 1,230枚</p> <p>●用紙代 88,486円</p> <p>●制作課10分1人 300円</p>
<p>ブック・カバー 印刷用紙発注</p>	<p>ブック・カバー印刷用紙の発注。</p> <p>発注先 大永紙通商株式会社</p> <p>納入先 有限会社アジア印刷</p> <p>使用枚数 2,750枚</p> <p>●用紙代 45,910円</p> <p>●制作課10分1人 300円</p>
<p>9月26日 水 ブック・カバー 印刷完了</p>	<p>ブック・カバー印刷が終了する。</p> <p>印刷所 有限会社アジア印刷</p> <p>●印刷代 26,400円</p>
<p>腰帯用紙発注</p>	<p>腰帯一帯紙(書初め表紙、ブック・カバーの下部に巻きつけ、読 者の注意を引く文面を記した紙)の印刷用紙発注。</p> <p>発注先 大永紙通商株式会社</p> <p>納入先 浩文社印刷所</p> <p>使用枚数 650枚</p> <p>●用紙代 11,730円</p>

本扉の版下
作成、発注

● 編集 2 課 1 8 0 分 1 人 / 制作課 1 0 分 1 人 計 6,300 円

本扉の版下を作成し、製版所に発注。

発注先 有限会社 ミツミ製版

● 製版代 2,500 円

● 制作課 30 分 2 人 900 円

付物責任終了

校閲課、編集 2 課は付物の念校を終了させ、制作課にまわす。制作課は題名、文面などの印刷位置を指定して「完了」とする。

● 付物組代 15,444 円

● 制作課 90 分 3 人 3,000 円

9月27日 木

腰帯写植原稿発注

腰帯の写植原稿を発注。

発注先 有限会社伸光写植

● 写植代 3,300 円

● 制作課 45 分 1 人 1,500 円

本扉用紙発注

本扉の印刷用紙を発注。

発注先 大永紙通商株式会社

納入先 早川書房

使用枚数 500 枚

● 用紙代 6,980 円

● 制作課 10 分 1 人 300 円

見返し用紙発注

見返し用紙（書籍の表紙裏に貼りつけられる紙）の発注。

発注先 二葉紙業株式会社

納入先 早川書房

使用枚数 920 枚

● 用紙代 5,280 円

● 制作課 10 分 1 人 300 円

売上カード刷了

協栄印刷所で売上カードが刷了する。

● 印刷代 4,760 円

<p>9月28日 金 腰帯の版下 作成、発注</p>	<p>腰帯の版下作成の後、亜鉛凸版（凸版印刷用の版材に亜鉛を用いたもの。亜凸と称す）の発注。 発注先 イシイ美術製版所 ●亜凸代 5,064円 ●制作課60分1人 2,000円</p>
<p>9月29日 土 本扉刷了 表紙刷了</p>	<p>有限会社幸和堂酒井印刷所で本扉の印刷が終了。 ●印刷代 6,300円 有限会社幸和堂酒井印刷所で表紙の印刷が終了。 ●印刷代 5,405円</p>
<p>版紙の発注</p>	<p>厚表紙の造本の為、板紙（腰の強い厚手の固い紙＝ボール紙）を発注。 発注先 大永紙通商株式会社 納入先 中央精版印刷株式会社 ●板紙代 68,737円 ●制作課10分1人 300円</p>
<p>ブック・カバー ビニール加工</p>	<p>ブック・カバーのビニール貼り加工が終了。 発注先 株式会社太陽堂光沢印刷所 ●ビニール加工代 54,000円</p>
<p>腰帯刷了 本文刷了</p>	<p>浩文社印刷所で腰帯の印刷完了。 ●印刷代 10,500円 本文（前付、後付を含む全ページ）の印刷終了。 ●印刷代 237,592円</p>
<p>10月1日 月 一部抜き点検</p>	<p>一部抜き（本文が刷了となった時点で、印刷物の各ページを抜き取り、折丁にし1冊分にまとめたもの）を中央精版印刷株式会社の営業部員が早川書房に持参する。制作課では落丁、乱丁などをチェックして編集2課にまわす。 ●編集2課30分1人／制作課60分2人 計2,800円</p>

製本（見本用）

中央精版印刷株式会社にて『太陽風交点』の見本用製本（用紙や印刷物をとじて表紙をつけ、書物、帳簿等を作ること）に入る。

●製本代 405,293円

配本部数の検討

営業部第1課（外商）〈以下営業部は略す〉は配本部数の検討に入る。

●第1課（外商）20分3人 3,000円

10月2日 火
見本
配本部数の決定

見本用の製本が完成し、中央精版印刷株式会社の営業部員が同日午前早川書房に100冊を持参する。早川書房では配本部数の決定をし、第1課（外商）は各取次店に見本を持って行き、配本部数を申し入れ、決定する。

●第1課（外商）1日1人／ガソリン代 16,200円

10月5日 金
配本

『太陽風交点』の作品が各取次店（書籍・雑誌を小売店に委託販売する卸売業をいう）を通じて全国発送となる。

●著者への印税 840,000円

●合計総人員 72人／合計総金額 3,338,618円